

平成二十九年 度 斑鳩の里を詠む「塔の里吟行」

大賞

虫しぐれ古墳の黙を弔へる

高橋 柊子

【 山下美典先生 選 】

特選	み仏と共にある里豊の秋	早川 水鳥
入選	斑鳩の花野巡りてやすらぎし	中島 笑美子
〃	藤の木のロマンかきたつ曼珠沙華	植田 みよ子
〃	法隆寺訪ふは決まって柿の頃	多田羅 初美
〃	色変へぬ松の風格法隆寺	南浦 義勝
〃	斑鳩の塔より塔へ木句の秋	水上 末子
〃	中宮寺明け放つ堂小鳥来る	中田 豪起
〃	一鐘の余韻さはやか法隆寺	松野 綾子
〃	塔の里めぐりて秋をほしいまま	南 清風
〃	虫しぐれ古墳の黙を弔へる	高橋 柊子
〃	爽やかや飛鳥文化を守るいかるが	窪田 由紀子

平成二十九年度 斑鳩の里を詠む「塔の里吟行」

【古賀しぐれ先生 選】

特選	鹿垣の無きも仏の里らしく	小井川 和子
入選	法隆寺訪ふは決まって柿の頃	多田羅 初美
〃	秋草の歩や宝輪は空の中	片山 美知子
〃	豊の秋三塔遠くてとほからじ	南 清風
〃	斑鳩の千草の束を野仏に	矢田 靖子
〃	我と来て古刹尋ぬる赤とんぼ	片岡 嘉幸
〃	色変へぬ松に千古の風匂ふ	塚原 清子
〃	子規恋ひの旅の続きて九月果つ	多田羅 初美
〃	塔の秋鞆に句帖朱印帖	平谷 茄美
〃	塔晴れて塔曇らせて秋の空	堀内 順子
〃	草風つけて千古の塔仰ぐ	植田 みよ子

平成二十九年度 斑鳩の里を詠む「塔の里吟行」

【 正岡 明先生 選 】

特選	虫しぐれ古墳の黙を吊へる	高橋 柊子
入選	塔の風ひとむら芒の風となる	松野 綾子
〃	柿を売る媪は多弁大和弁	浅間 二調
〃	豊沃の土のめぐりや稻香る	宮成 みどり
〃	斑鳩の千草の束を野仏に	矢田 靖子
〃	塔よりも高きものなし秋の空	榊 和美
〃	風連れて雲も引き連れ稲穂かな	池田 喜美枝
〃	月光菩薩状し目に在す秋灯	中島 笑美子
〃	頬杖の指に秋思の半跏像	吉田 紗湖
〃	御僧の経読むごとく法師蟬	多田羅 初美
〃	情熱を野に燃へ立たせ曼珠沙華	永尾 義子

平成二十九年 度 斑鳩の里を詠む「塔の里吟行」

【和田 桃先生 選】

特選	虫しぐれ古墳の黙を吊へる	高橋 柊子
入選	宝物殿出で現世の秋日濃し	雑賀 みどり
〃	夢殿の秋陰ばかり覗き込む	堀江 信彦
〃	ここよりは塔めざす道花芒	大地 静子
〃	塔の秋鞆に句帖朱印帖	平谷 茄美
〃	法隆寺長蛇の二列秋の旅	角野 桂治郎
〃	ねこじやらし群れて一本づつの風	窪田 由紀子
〃	鹿垣の無きも仏の里らしく	小井川 和子
〃	千年の樹齡のくねり新松子	古賀 しぐれ
〃	広々と飛び斑鳩の稲雀	植草 京子
〃	慈悲に満つ半跏像にもある秋思	横田 幸子